



2023年2月1日発行
1947年10月27日
第3種郵便物認可
発行所/日本YMCA同盟
東京都新宿区本郷町2-11
THE YMCA神戸版
神戸YMCA
〒650-0001
神戸市中央区加納町2-7-11
Tel 078-241-7201
Fax 078-241-7479
www.kobeymca.org
発行人/井上真二
編集人/松森正樹
印刷/（有）わかばやし印刷



年間聖句

「あなたに平和、あなたの家に平和、
あなたのものすべてに平和がありますように。」

サムエル記上 25章6節



やまね いずみ
神戸ワイズメンズクラブ 山根 泉さん
(社会福祉法人恵泉寮障害者支援施設清心ホーム施設長)

私は現在、障害者支援施設清心ホーム(主に知的障害のある方々の入所施設)の施設長を務めています。数年前までは、障害は知的、身体、精神に大別されていましたが、現在は一元化され総じて「障害」と呼ばれています。しかしそれぞれの障害特性は多岐にわたり、中でも知的障害は見えない障害ゆえ、これまで多くの偏見や差別の対象となっていました。

さて、コロナ禍で外部との接触を制限している施設が多い中、私の職場はできる限り自粛しないで普通の生活を送れるよう日々支援しています。昨年も大勢の実習生やトライやる・ウィークの中学生を受け入れました。普段、知的障害者と接する機会の少ない彼らにとっては、怖い、不衛生等、マイナスイメージが多いと思いますが、そんな気持ちが少しでも和らぎ、将来、障害者を支援する仕事を少しでも理解できる大人になってくれたら実習の意義があると思い、取り組んでいます。

毎回、施設長の持ち時間があり、私は「私は障害を持っている」と「私には障害がある」のどちらが正しい日本語だと思うかと問いかけをします。日本語の響きからは前者の方がソフトかもしれませんが、「持つ」を自動詞だと考えると、「離す」こともできそうです。知的障害者は自分の意志に関係なく障害があり、生涯なくなることはありません。入所施設も以前は更生施設と呼ばれており、教育や訓練によって更生(元の良い状態に戻る)し、在宅復帰や地域での単身生活を目指す通過施設でしたが、実態は異なり、現在は心身の状態が悪化して入院する以外は、施設での生活を余儀なくされ、「終(つい)の棲家」と呼ばれるようになりました。地域移行(グループホームでの生活等)施策も進んでいます。少人数でプライバシー保護に配慮された生活とはいえ、施設入所の分割化、延長線と言えます。

「困りごと」への配慮 ピンクシャツデーに寄せて

2016年4月、国は「障害者差別解消法」を施行しました。これは障害による差別を解消し、誰もが分け隔てなく共生する社会の実現を目的とした法律です。「差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」がその中心理念ですが、平たく言えば、いかに障害者の「困りごと」を見つけ、減らしていくかに尽きます。ところが施設の中では「困りごと」だらけです。好きな時に飲食できない。自由に外出できない。自由に買い物できない。好きな時にシャワーを浴びられない等、書き出すといくらでも見つかります。私たちにとって当たり前の暮らしが彼らには与えられず、「困りごと」、つまり「差別的取扱い」になっているという現実が、障害者施設であっても存在するのです。

コロナ禍の約3年間で、施設での「困りごと」は当然ながら増えました。そんな中で利用者は愚痴をこぼすこともなく淡々と暮らしています。むしろ何かにつけて「コロナやからなあ...」と愚痴っているのは私たち職員ではないでしょうか。いくら立派な法律ができて差別が簡単になくなることはありません。差別を受けている人の立場を理解し、配慮-思いやりをもって彼らの気持ちに寄り添うという援助者の基本姿勢を学び実践することが大切なのです。

YMCAピンクシャツデー 2023年2月22日(水)

いじめによってつらい日々を過ごしていることもたちが大勢いるという現実が心が痛みます。YMCAは引き続き、社会全体でいじめに向き合うこと、差別や偏見、分断ではなく、誰もが安心して暮らせる社会の創造を目指して、ピンクシャツデーに取り組みます。

それは、身も心も凍えるような寒い日でした。

その夜は、空いっぱいの星たちが天使たちの合唱に合わせ、キラキラと輝くベルを私たちと共に響かせてくれているような夜になりました。

12月23日(金)の神戸YMCAベルクワイアー第30回「クリスマスコンサート」は、神に導かれ恵みの内に終始しました。

音楽にしか到達できない、神の領域とも言える、心の奥深いところの鍵を開くことができるのは、このような夜のハンドベルの響きな

のではないのでしょうか。クリスマスの賜物を受け、心を和ませたかのように顔を輝かせた皆さんをお見送りするのは本当に嬉しいです。

ユーフォニアムのために作曲された素敵な曲「Panache」や、鐘の音と響きをフルに引き出したような「キャリヨン」、耳慣れなくとも素晴らしい味わいのキャロルなど、ほぼ全体をネット上に公開しました。神戸YMCAのホームページにリンクされています。是非、お聴きください。

あべ のぞむ
神戸YMCAベルクワイアー指揮者 阿部 望さん

この一年、恵みに満ちた心豊かな年となりますように！

リンクは
こちらからどうぞ⇒



インターナショナル・チャリティーラン開催！

11月23日(祝・水)に、しあわせの村にて「第24回 神戸YMCAインターナショナル・チャリティーラン2022」を開催しました。「素晴らしい秋晴れのもと…」と秋の空を報告したいところですが、この日は朝から雨で、中止にしようか実施しようかとギリギリまで迷いましたが、実施しました。競技前の会場設営準備中には大雨になる時もありましたが、競技前に小降りになり、競技中は雨が止むこともありました。

今年度も昨年度同様に午前中だけの開催

で、感染症対策を行いながら「3.5kmラン」「1.2kmラン」「1.2kmウォーキング」の3種目を行い、グループ・個人で総勢151名の参加がありました。ねずみの親子、お姫様、ミ〇オンなどさまざまな仮装をしての参加もあり、大会を盛り上げてくれました。雨の中でしたが、子どもたち、参加者の皆さまの笑顔がたくさん見ることができました。

たくさんのご支援、ご協力をいただき心より感謝を申し上げます。なお、この大会の収益金

実行委員会担当主事 間勝也

は障がいのある子どもたちの野外活動等の支援に用いさせていただきます。



生まれ変わるウエルネスセンター

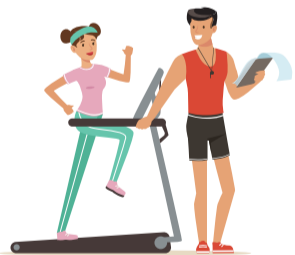
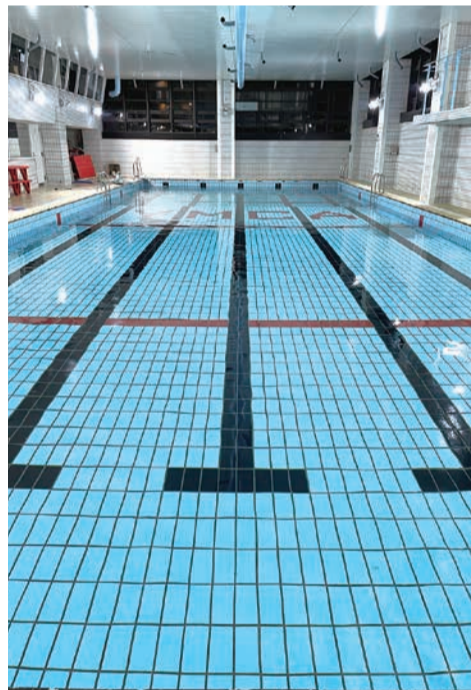
ウエルネスセンター学園都市

学園都市に会館が与えられて34年目を迎えた2022年。これからも地域の皆さまと共に歩いていくため、9月末よりウエルネスセンターの大規模修繕工事が始まりました。

外壁塗装、屋根の塗装に関しては、色の選定を会員の皆さまへのアンケートにより決定しました。さまざまな箇所の点検、整備、補修が行われていく中、ウエルネスセンターのプールも天井の張り替え、照明のLED化が行われました。一部の改修となりましたが「明るくなった」「きれいになった」等、好評をいただいています。

施設のすべてが最新のものではなく、まだまだ不便な点もありますが、そういった点も愛され30年を超えて利用いただいているYMCAを、さらに次代につないでいきたいと思えます。

会館を利用される皆さまのご協力をいただきながら、現在も工事は順調に進んでいます。工期終了は3月末の予定です。近くにお越しの際は、少し生まれ変わったウエルネスセンターに足をお運びください。



卒業制作模擬挙式

専門学校ホテル学科

12月16日(金)、ホテル学科2年生による卒業制作模擬挙式が執り行われました。会場は今年で3度目となる日本キリスト教団神戸栄光教会(神戸市中央区)でした。

学生が一から結婚式を創り上げるのが模擬挙式です。設定は毎年さまざま、今年のテーマは「国際結婚」でした。ホテル学科には留学生在籍しています。新郎役に台湾出身の留学生、新婦役に日本人学生という設定でした。結婚式を「旅」で表現し、また日台の文化を織り交ぜた演出が非常に印象的でした。制作をする上で、自分たちが何を伝えたいのか、自分たちだから創れるものは何かを話し合った学生たち。行きついた先には、「国境を越えた人との繋がり」「偏見や差別の問題解決」でした。

神戸YMCA学院専門学校では国際性も大切にしています。在学中に築かれたその精神を卒業制作として形にし、参加者に伝えてくれました。全員が向き合い、当日はチームとなり集大成を発揮することができました。この経験を胸に、社会人になっても自信を持って進んでほしいです。



灯台

Light House

No.36

総主事 井上真二



田中忠雄画伯 生誕120周年

たなか ただお

たなか ともう

田中忠雄さんは1903年、田中兎毛牧師の長男として生まれ、クリスチャン画家としてその晩年まで聖書の世界を描かれました。昨年の9月に田中忠雄さんのご家族からご連絡をいただき、生誕120周年となる2023年に、その記念として「聖書画カレンダー」を作成するので、神戸YMCAのチャペルにある「弟子の足を洗う」の絵もそのひとつに加えたいとのことでした。

三宮会館の2階チャペルにある田中忠雄さんの絵についてのエ

ピソードは以前にもこのコラムで取り上げました。1980年12月のクリスマス晩餐会で、旧会館のチャペル壁面に掲げられたこの聖画は、YMCAの奉仕の精神を表すヨハネによる福音書13章にちなんで「人の子がきたのは、仕えられるためではなく、仕えるためである」というキリストの言葉を表し、また、人に仕える愛と奉仕は、後になって新しい意味をもつものだというイエスの愛そのものを伝えていきます。聖画が掲げられたクリスマス晩餐会から40余年、何人の会員、学生、職員、来館者がこの聖画を目にしたのでしょうか。

生誕120周年のカレンダーには合計13枚の油彩画が紹介され、2023年2月に『弟子の足を洗う』1980年 神戸YMCA蔵、として選ばれています。

R E P O R T

神戸学園都市YMCAこども園

こどもたちと祈る愛と平和

世界YMCA・YWCAは、毎年11月の第2週を「合同祈禱週」として定め、一つのテーマについて、世界中の仲間と共に祈りの時を過ごしてきました。この期間に私たちこども園では、さまざまなメディアなどを通して「戦争」の怖さやむごさを感じているこどもたち自身が、「平和」の大切さを話し合う機会を持ちました。

12月10日(土)には、こどもたちの中で大きくなった神様の愛と平和が世界中に届くことへの願いを込め、こどもたち、保護者の方々と共に「クリ

スマス礼拝・祝会」を開催しました。コロナ禍の影響が残る中、今年も3回に分けての開催となりました。また、12月14日(水)には、3年ぶりに、祖父母の皆さまにも5歳児によるイエス様の降誕劇を見ていただくことができました。

こどもたちの思い、神様の「愛」と「平和」が世界中に届くことを祈りたいと思います。



須磨センター学童保育クラブ

豊かに迎えるクリスマス

12月10日(土)にクリスマス礼拝・祝会を実施しました。こどもたちは11月に入ってから、クリスマスまでをカウントダウンするアドベントカレンダーを毎日めぐり、クリスマスを迎えることを楽しみに過ごしていました。

このアドベントと言うのはイエス様の誕生を待ち望む期間のこと。そして、待ちに待ったクリスマス会です。今回は、YMCAちとせ幼稚園の礼拝でお話をしてくださっている日本基督教団鈴蘭台教会やなぎもと かずよしの柳本和良先生にお越しいただきました。牧師先

生からお話を聞くのは学童保育クラブでは初めてで、貴重なひとときとなりました。こどもたち、保護者共に、「あなたたちはみんな神様に必要とされている」というメッセージを真剣な眼差しで聞いていました。

礼拝後は、親子で交わることができるゲームを中心に祝会を楽しみました。本物の礼拝を体験し、イエス様の誕生をみんなで喜ぶことができたことをうれしく思います。



神戸市立東灘体育館

地域のニーズに応える体育館

東灘体育館では、さまざまな世代を対象としたスポーツ教室を提供していますが、これまで未就学児対象の定例教室は実施していませんでした。そのような中、夏休みなどに未就学児対象の短期教室を実施したところ、抽選になるほど多くの申し込みがありました。幼児対象の体育プログラムのニーズがあることがわかり、定例教室として「わくわく子ども体操教室」を開講することとなりました。これで、東灘体育館のスポーツ教室はシニアから幼児まで幅広い方々を対象としたラインナップ

になりました。

また最近では、競技スポーツの利用だけでなく、近隣の学童保育や放課後等デイサービスの「遊び場」としての利用も増えてきています。近隣に自由に遊べる広場・公園がない、公園があってもボール遊びは禁止...など、こどもたちの遊ぶ環境が変わってきている中で、体育館の役割も変化が求められているのではないかと感じます。これからも広く市民の皆さまが利用しやすい運営を目指していきます。



こくさいのまど

私たちは、忘れていない～YMCA国際協力募金・街頭募金活動～

12月11日(日)、大丸神戸店前にて3年ぶりの街頭募金活動を実施し、皆さまのご理解とご協力により34,895円の募金が集まりました。心より感謝申し上げます。

当日は、神戸YMCAの国際委員、ワイズメンズクラブ、専門学校日本語学科の学生、PHD協会研修生、関係者のこどもたちにご参加いただき、YMCAのスタッフも含め、延べ24名で活動しました。ひさしぶりの街頭募金活動でしたので、活動時間を1時間に短縮、マイクを使ったアピールなど、感染予防対策を講じて実施いたしました。

募金をしてくださる際、「昔YMCAのキャンプに

参加したことがあります」「プールのメンバーです」とうれしいお声掛けもありました。また、募金を呼びかけていたこどもが「ぼくも募金をしたい!」と意気込んでいました。

この街頭募金活動を通して、さまざまな状況にあっても他者への支援を止めない、そして「私たち(社会)は忘れていない」、このメッセージが多くの方々に伝わったと信じています。

街中でYMCAの活動をアピールできたこと、メンバーとつながれたこと、皆さまとYMCA活動ができたことに感謝いたします。



YMCA STORY 神戸YMCAの幼稚園事業

神戸YMCAの幼稚園は、1961年に須磨区にあった千歳幼稚園の運営をYMCAが引き継ぎ、学校法人 神戸YMCA 学園としての認可を受けて開始されました。その後1973年に千歳町から移転する形で須磨区高倉台に神戸YMCAちとせ幼稚園が設立され、また1999年には西区井吹台に2つ目の幼稚園として西神戸YMCA幼稚園が開園しました。

そして「子ども・子育て支援新制度」により教育と保育を一体的に行う「認定こども園」という施設形態が始まり、2015年度には神戸YMCAちとせ幼稚園が、2018年度には西神戸YMCA幼稚園が共に「幼保連携型認定こども園」として運営を始めました。

YMCAの使命を実現するために、幼稚園ではキリスト教

学校法人 神戸YMCA学園顧問 **吉田 昌義** さん

保育を実践するというに集約されるのですが、「キリスト教保育とは何か」を言葉で表すだけではなく、教育と保育の現場でどう具現化できているかを検証することが常に求められています。

こどもを取り巻く環境は大きく変化していますが、神戸YMCA全体がそれぞれの法人の特徴を生かして、こどもたちが神と人に愛され、そして平和を創り出す者として成長することを願っています。

最後に、YMCAの幼稚園で大切に歌われている讃美歌を紹介いたします。まさしく私たちの使命と願いを表している歌として、大切にしていきたいと思っています。

“Make me a channel of your peace”(あなたの平和の道具にして下さい)

作詞:FRANCESCO D'ASSIS 訳詞:EVELYN WESTMAN 作曲:TEMPLE SEBASTIAN

あなたの平和の道具にしてください 主よわたしをあなたの平和の道具に
 憎しみのあるところにあなたの愛があるように 悲しみがあるところに喜びがあるように
 あなたの平和の道具にしてください 主よわたしをあなたの平和の道具に
 あやまちがあるところにやさしい心のゆるしを うたがいあるところに信仰があるように
 あなたの平和の道具にしてください 主よわたしをあなたの平和の道具に
 絶望あるところに満ち溢れる希望を くらやみあるところにひかりがあるように
 あなたの平和の道具にしてください 主よわたしをあなたの平和の道具に

refocus the YMCA ~YMCAの今を見つめる~

第22回 日本YMCA大会のご報告と日本YMCA同盟表彰の神戸YMCAの受賞者ご紹介

「第22回 日本YMCA大会」が11月25日(金)から27日(日)にかけて、日本YMCA同盟国際青少年センターYMCA東山荘(静岡県御殿場市)で行われました。これは2年に一度、全国のYMCA関係者が集い、YMCAについて学び、交流を深めるものです。前回はオンライン形式で実施されましたので、対面式は4年ぶりの開催でした。

ユースの皆さまのエネルギーと活動ぶりに感激し、参加者の皆さまとの交わりの中で自身とYMCAのつながり確か

める時となりました。大会期間中は天候にも恵まれ、富士山の美しい姿や東山荘の見事な紅葉を眺めることができました。

日本YMCA同盟では2年に1度、YMCA運動に奉仕された方々への表彰・感謝を行っており、今回の大会の中で授賞式がありました。神戸YMCAで受賞された皆さまを、そのお働きに感謝をして紹介させていただきます。

- [50年継続会員賞]** 岩田 健司 多留 浩惟 牧田 稔 山口 明子 山本 良
- [25年継続会員賞]** 井出 浩 井出 富光子 上谷 円 末岡 成夫 高松 充世 多留 寛明 広瀬 克利
- [青少年奉仕賞]** 浅野 純一 大田 厚三郎 丹家 元陽 中出 信義 中村 豊 西尾 幸男 藤原 百合子
- [25年勤続者賞]** 小寺 隆志 坂本 孝司 間 勝也 (敬称略、五十音順)

ケンミン食品株式会社様より ご支援をいただきました

ケンミン食品株式会社様は、神戸YMCAが行う『すべての「いのち」が輝く活動』の主旨にご賛同くださり、「ケンミンの焼ビーフン」をご寄附くださいました。インターナショナル・チャリティーランや神戸YMCA各拠点でのチャリティーバザーで提供したほか、外国人留学生や子育て世帯の支援に充てさせていただきます。

ご支援の感謝とともに、ご報告いたします。



日本宝くじ協会より テントのご寄贈

一般財団法人 日本宝くじ協会は、地域のこどもたちや家族、地域活動に役立つように、公益法人等が実施する公益事業へ助成を行っています。このたび、集会用テント2張が神戸YMCAに寄贈されました。YMCAの各拠点や、その周辺での地域活動の際に、有効に活用いたします。心より感謝申し上げます。



神戸YMCAの使命 (日本YMCA基本原則)

- イエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学びます。
- すべての人びとの全人的な成長を願い、いのちを守り育てます。
- 人権を守り、喜びと痛みを分かちあう社会をめざします。
- 世界の人びとと共に、平和の実現に努めます。

神戸YMCAの願い(神戸YMCA中期計画2020)

すべての「いのち」が光り輝くように、これを守り育てます。
 そのための活動に世代を超えた市民の参加を求め、その活動を通して新しいコミュニティを創造します。

- ファミリーウェルネスセンター ☎078 (241) 7202
- ランゲージセンター ☎078 (241) 7204
- 専門学校 ☎078 (241) 7203
- 西宮YMCA ☎0798 (35) 5987
- 余島野外活動センター ☎0879 (62) 2241
- デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局) ☎078 (241) 7216
- 国際・奉仕センター ☎078 (241) 7204
- ウェルネスセンター学園都市 ☎078 (793) 7401
- 西神戸YMCA ☎078 (793) 7402
- 神戸YMCA高等学院 ☎078 (793) 7435
- YMCAおひさま ☎078 (793) 9077

- 西神南YMCA ☎078 (993) 1560
- 須磨YMCA ☎078 (734) 0183
- YMCA保育園 ☎078 (794) 3901
- 西宮YMCA保育園 ☎0798 (35) 5992
- 西神戸YMCA保育園 ☎078 (792) 1011
- 神戸学園都市YMCAこども園 ☎078 (791) 2955
- 神戸YMCAちとせ幼稚園 ☎078 (732) 3542
- YMCAちとせ保育ルーム ☎078 (786) 3821
- 西神戸YMCA幼稚園 ☎078 (997) 7705
- 西宮つとがわYMCA保育園 ☎0798 (26) 1016
- あかしこども広場 ☎078 (918) 6355
- 学園都市YMCA保育ルーム ☎078 (794) 3045



ワイズコーナー

人と人の出会いから仲間の輪を広げる

六甲部EMC事業主査 **上杉 徹** さん
 (神戸西ワイズメンズクラブ)

私とワイズとの出会いは、32年前の神戸西クラブの広瀬卓蔵さんとの出会いが始まりです。一見強面のお顔ではありましたが笑顔が素敵で、いつも優しい眼差しでボランティアの若い学生たちに声をかけていました。「若い人を応援するんじゃ!」という力強いお言葉は、こどもと若者を支援する私の原点となりました。広瀬さんは阪神・淡路大震災の際に神さまのもとに送られました。この出会いがきっかけとなり、入会することになりました。

YMCAとワイズメンズクラブには素敵な人間同士の出会いとそこから起こる化学反応があります。コロナ禍におけるこどもと若者の受難の時代、このような出会いから新たな仲間と出会い、活動が広がることを願います。

※EMC:新クラブ設立(E)、新会員増強(M)、意識高揚(C)。ワイズメン運動を拡大強化する事業のこと。

感謝・寄附

(敬称略、順不同) (前号掲載以降~2022/12/15現在)

寄附

片岡 尹子、堀田 牧子

チャリティーラン協賛金

水野 雄二、山本 洋子、井出 浩、濱瀬 真知子、山本 常雄、山本 容子、青柳 美知子、多胡 葉子、石田 由美子、郡家 学、福田 宏子、小林 康男、長尾 亘、福家 清美、三島 浩司、館 忠之、家山 華子、大野 智恵、大野 勉、武田 寿子、若林 成幸、進藤 啓介、松田 道子、濱 浩一、尾上 尚司、美崎 晋、長内 建佑、長内 靖子、佃 治子、山根 泉、川崎 孝子、大岩 雅典、宮内 伸浩、田代 雅彦、古川 通大、鶴丹谷 剛、河合 純子、森 章一、森 真由、間 勝也、北島 伸三、名田 敦子、原 伸行、サンヨー環境株式会社、東光碍子株式会社、余島リーダー会、神戸ワイズメンズクラブ、西宮ワイズメンズクラブ、神戸西ワイズメンズクラブ、神戸ポートワイズメンズクラブ、神戸ポーターズ会、神戸ワイズメンズクラブ、宝塚ワイズメンズクラブ、神戸学園都市ワイズメンズクラブ、芦屋ワイズメンズクラブ

国際協力募金

宗行 孝之介、松田 道子、中尾 秀一、神野 敬子、熊谷 親路、ロニー アレキサンダー、カレッジ・アンコラージュ(株式会社ライフシンセリティ)、フランス料理「Vérité」、有限会社井上ビル、社会福祉法人頌栄会西鈴蘭台頌栄保育園、ディンドンリンガーズ、神戸ワイズメンズクラブ、神戸ポートワイズメンズクラブ

ウクライナ支援募金

中田 杉子、宗行 孝之介、橋本 耕治、中道 基夫

学生生活支援募金

杉原 賢治

この他にも、多数の募金・寄附をいただいております。感謝をもってご報告します。